

---

## 迅速ニーズアセスメント

(上原鳴夫、國井 修・編：災害時の公衆衛生、東京、南山堂、2012、53-64)  
2015年2月27日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

将来私たちは、災害が起こった時、混乱の中で保健医療分野における適切な対応を行うために、いまなすべきことを的確に把握し効果的な対応を可能にするという目的で情報を収集し分析しなければならない。

迅速アセスメント rapid assessment(RA)とは投入できる時間や手段、要員などが制約される中で優先度を考慮し実用的な方法を駆使しながら必要な情報を効果的に収集、分析するプロセスを指す。なかでも特に、被災の実態が不分明な状況下で緊急にニーズを把握するために行われる発災後最初のアセスメント調査を RA と呼ぶこともある。

災害下のアセスメントには次のような制約や特徴がある。

- ① 被災が大きいところほど情報が得られにくい。
- ② 情報の正しさを把握する手段が限られている。
- ③ 現場の状況とニーズが急速に変化する。

このため、受身的な情報収集に基づいて対応しては情報が入ってこないところに対しての対応が後回しになってしまう。一方能動的な情報収集では何を知るべきかをあらかじめ指針化しておくことが求められる。

実際のアセスメントは、初期アセスメント→全体アセスメント→課題別アセスメント→定期的アセスメント／モニタリング→復旧、再建のためのアセスメントという流れで行われている。災害下で特に重要なのは、初期アセスメントである。

初期アセスメントの目的は、災害種別と被害状況、緊急事態であることの確認と緊急事態が進展する可能性、生命と健康にかかわる被害の現状と潜在的リスク、現在の緊急対応能力と緊急支援ニーズ、緊急にとるべき行動を明らかにすることで、生命にかかわる事項と迅速性を重視する。具体的な調査事項は以下のようなものである。

### 調査事項

- 災害の形態と大きさ  
被災した地域の範囲、人口、特性

ライフラインの被害状況

- 死者、行方不明者と傷病者の数  
報告数と推定数
- 保険医療システムの被害  
医療施設の被害、救急医療システムの稼働状態
- 公衆衛生の課題  
医療機関の稼働状況、リスクファクターと緊急ニーズ
- 現地の緊急対応能力

必要な支援と要請内容（要請物資、人員）とそれらの搬送方法

これらのことを、災害対策本部から派遣される調査チームと現地で発災直後から対応している現場の災害対策関係者が共同で、突発型災害では発災後 12~24 時間以内、洪水や感染症アウトブレイクでは 2~4 日のうちに実施したい。

これらの被災情報とニーズの情報は災害対策本部に設けられる災害情報センターに集約して適切な場(ホームページなど)から提供されることで被災地の負荷を減らし迅速な対応を促進する。よって「集中と共有、公開」を原則とし被災者救援のために役立てるべきである。